

フレッツェン!!! 期待の俊才たち

日本学術振興会(安西祐一郎理事長)は、日本学術振興会賞審査会(委員長 江崎玲於奈)・突破科学技術振興財団理事長の審査に基づいて、第8回平成23年度日本学術振興会賞の受賞者24名を決定した。

日本学術振興会賞は、将来の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッツェンな研究者をいち早く顕彰するべく、今後の研究チャンスを与え、フレッツェンな研究者を育てようとする。受賞者に賞状と副賞として研究奨励金100万円が贈られる。

今回は、自然科学から人文・社会科学にわたるあらゆる分野を対象としている同賞の授賞式が同時に行われる予定。

らでは研究者24人に授与される。自然科学系では、マウスにおいて肌の毛の色のもととなる色素細胞を特定、幹細胞維持される分子機構を明らかにし、白髪・脱毛などの老化現象の理解などに貢献した研究者が選ばれた。人文・社会科学系では、日本古代史の研究において重要な資料である木簡を詳細に分析することで、都城を中心とする日本古代交通制度の実態を明らかにした研究者が選ばれた。

なお、これら24人の受賞者の中から、日本学術振興会賞の受賞者を選ばれる。2月27日、東京・上野公園の日本学術振興会館で、日本学術振興会賞と日本学術振興会賞の授賞式が同時に行われる予定。

理工系

磁化制御技術 画期的な貢献

技術者を駆使してナノメートルスケールの強磁性細線や強磁性ナノドットを創製することに、その中で発生する電流と磁気モーメントの直接的な相互作用に基づいた制御技術を開発した。

研究員 京都大学大学院 工学研究科 教授 小野 謙一

小野氏は、半導体デバイス分野で用いられている微細加工技術を用いて、ナノメートルスケールの強磁性細線や強磁性ナノドットを創製することに成功した。この技術は、磁化制御技術の発展に大きく貢献した。今後、新しい磁気メモリや磁気論回路などの革新的なデバイス開発に発展することが大いに期待される。

複雑な系の上の確率過程研究

無次元・京都大学数理解析 研究員 熊谷 浩二

熊谷氏は、複雑な系の上の確率過程を解析する因子を抽出し、一般の枠組みで複雑な系を解析する。20年以上にわたって未解決であった、シミュレーションの計算時間削減の課題を解決した。熊谷氏は、フラクタル図形上の確率過程の理論的研究に貢献した。熊谷氏の研究は、複雑な系の上の確率過程の発展に大きく貢献した。熊谷氏の研究は、複雑な系の上の確率過程の発展に大きく貢献した。

外部次元の存在 証拠観測に道

中野 貴由 大阪大学大学院 工学研究科 教授

中野氏は、外部次元の存在を証拠観測した。外部次元の存在は、重力の振る舞いを説明する上で重要な役割を果たす。中野氏の研究は、外部次元の存在の証拠観測に道を開いた。中野氏の研究は、外部次元の存在の証拠観測に道を開いた。

骨の特性決める重要因子解明

中野 貴由 大阪大学大学院 工学研究科 教授

中野氏は、骨の特性を決める重要な因子を解明した。骨の特性は、骨の強度や弾性を決定する上で重要な役割を果たす。中野氏の研究は、骨の特性を決める重要な因子を解明した。中野氏の研究は、骨の特性を決める重要な因子を解明した。

電顕観察技術発展に貢献

末永 和知 産業技術総合研究所 研究員

末永氏は、電顕観察技術の発展に貢献した。電顕観察技術は、微小な構造を観察する上で重要な役割を果たす。末永氏の研究は、電顕観察技術の発展に貢献した。末永氏の研究は、電顕観察技術の発展に貢献した。

タンパク質解析から産物化まで

津本 浩平 東京大学医学部 教授

津本氏は、タンパク質解析から産物化までを研究した。タンパク質解析は、タンパク質の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。津本氏の研究は、タンパク質解析から産物化までを研究した。津本氏の研究は、タンパク質解析から産物化までを研究した。

心臓機能解明から心筋再生へ

家田 真樹 慶應義塾大学 教授

家田氏は、心臓機能解明から心筋再生へを研究した。心臓機能解明は、心臓の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。家田氏の研究は、心臓機能解明から心筋再生へを研究した。家田氏の研究は、心臓機能解明から心筋再生へを研究した。

近代イタリアの情報空間を分析

桑本 孝司 大阪大学 教授

桑本氏は、近代イタリアの情報空間を分析した。近代イタリアの情報空間は、近代イタリアの社会や文化を明らかにする上で重要な役割を果たす。桑本氏の研究は、近代イタリアの情報空間を分析した。桑本氏の研究は、近代イタリアの情報空間を分析した。

古代日本の交通制度を解明

大木 尚 大阪大学 教授

大木氏は、古代日本の交通制度を解明した。古代日本の交通制度は、古代日本の社会や文化を明らかにする上で重要な役割を果たす。大木氏の研究は、古代日本の交通制度を解明した。大木氏の研究は、古代日本の交通制度を解明した。

地盤環境保全に不可欠の手法

勝見 武 京都大学大学院 地球環境学 教授

勝見氏は、地盤環境保全に不可欠の手法を開発した。地盤環境保全は、地盤の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。勝見氏の研究は、地盤環境保全に不可欠の手法を開発した。勝見氏の研究は、地盤環境保全に不可欠の手法を開発した。

幹細胞も老化現象解明

西村 栄美 東京大学 教授

西村氏は、幹細胞も老化現象解明した。幹細胞は、細胞の再生や修復に重要な役割を果たす。西村氏の研究は、幹細胞も老化現象解明した。西村氏の研究は、幹細胞も老化現象解明した。

基礎生物学に独自領域確立

沼澤 孝 東京大学 教授

沼澤氏は、基礎生物学に独自領域確立した。基礎生物学は、細胞の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。沼澤氏の研究は、基礎生物学に独自領域確立した。沼澤氏の研究は、基礎生物学に独自領域確立した。

未知遺伝子の機能予測に挑戦

本下 賢一 東北大学 教授

本下氏は、未知遺伝子の機能予測に挑戦した。未知遺伝子の機能予測は、未知遺伝子の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。本下氏の研究は、未知遺伝子の機能予測に挑戦した。本下氏の研究は、未知遺伝子の機能予測に挑戦した。

糸状菌の新しい代謝機構を発見

高谷 直樹 筑波大学 教授

高谷氏は、糸状菌の新しい代謝機構を発見した。糸状菌の代謝機構は、糸状菌の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。高谷氏の研究は、糸状菌の新しい代謝機構を発見した。高谷氏の研究は、糸状菌の新しい代謝機構を発見した。

ジスルフィド結合の作用解明

稲葉 謙次 九州大学 教授

稲葉氏は、ジスルフィド結合の作用解明した。ジスルフィド結合は、タンパク質の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。稲葉氏の研究は、ジスルフィド結合の作用解明した。稲葉氏の研究は、ジスルフィド結合の作用解明した。

ナノ構造体構築の方法論開拓

松浦 和則 九州大学 教授

松浦氏は、ナノ構造体構築の方法論開拓した。ナノ構造体構築は、ナノ構造体の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。松浦氏の研究は、ナノ構造体構築の方法論開拓した。松浦氏の研究は、ナノ構造体構築の方法論開拓した。

温和な条件下で効率的窒素固定

西林 昭一 東京大学 教授

西林氏は、温和な条件下で効率的窒素固定した。窒素固定は、窒素の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。西林氏の研究は、温和な条件下で効率的窒素固定した。西林氏の研究は、温和な条件下で効率的窒素固定した。

人の社会的知性の起源探る

平田 聡 京都大学 教授

平田氏は、人の社会的知性の起源探る。人の社会的知性は、人の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。平田氏の研究は、人の社会的知性の起源探る。平田氏の研究は、人の社会的知性の起源探る。

日米の経済制度発展を比較

森口 千晶 一橋大学 教授

森口氏は、日米の経済制度発展を比較した。日米の経済制度発展は、日米の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。森口氏の研究は、日米の経済制度発展を比較した。森口氏の研究は、日米の経済制度発展を比較した。

古代中国の刑罰 複雑な過程解明

宮本 浩一 京都大学 教授

宮本氏は、古代中国の刑罰 複雑な過程解明した。古代中国の刑罰は、古代中国の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。宮本氏の研究は、古代中国の刑罰 複雑な過程解明した。宮本氏の研究は、古代中国の刑罰 複雑な過程解明した。

生物系

生物系は、生命の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。生物系は、生命の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。生物系は、生命の構造や機能を明らかにする上で重要な役割を果たす。

世界リードする研究者に

安西祐一郎理事長の話「学術研究の推進を図っていくためには、優秀な研究者が育ち、その研究者が十分に能力を発揮し、優れた研究成果を生み出すという、好循環が継続的になされていることが必要不可欠です。我が国においては、これまでもノーベル賞受賞者をはじめとする世界的研究者が学術研究の発展を牽引してきました。研究者には、困難な課題に挑戦していく精神はもとより、俯瞰的な視野を持って研究に取り組む能力、さらには主体性、創造性が求められています。このような世界最高水準の研究を推進していく優秀な若手研究者の育成・確保は、今後ますます重要であると考えています。」

ノーベル賞級の成果期待

江崎玲於奈審査会委員長の話「私は長い研究生活を通じ、やや注目される成果を挙げることができました。幸い多くの賞をいただく栄誉に浴しました。しかしなかでも、私が34歳のとき、最初にいただいた大きな賞、1959年の仁科賞がやはりその後の活動のステップ・ストーンとしての役割を演じたと思われま。本賞も皆さんにとってそのような意義深い賞となれば幸いです。今回の受賞を弾みとして、ノーベル賞級のブレークスルーを目指し、リスクをとってフロンティアに挑戦して下さい。そして、皆さんがさらに大きな成果を上げ、国際的な舞台での一層の活躍を期待しています」

第8回 日本学術振興会賞に24氏

第8回日本学術振興会賞は、自然科学系から人文・社会科学にわたるあらゆる分野を対象としている。受賞者24名は、それぞれの分野で重要な研究成果を挙げた。第8回日本学術振興会賞は、自然科学系から人文・社会科学にわたるあらゆる分野を対象としている。受賞者24名は、それぞれの分野で重要な研究成果を挙げた。

期待の俊才たち

期待の俊才たちは、今後の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッツェンな研究者を育てようとする。期待の俊才たちは、今後の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッツェンな研究者を育てようとする。

期待の俊才たち

期待の俊才たちは、今後の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッツェンな研究者を育てようとする。期待の俊才たちは、今後の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッツェンな研究者を育てようとする。

期待の俊才たち

期待の俊才たちは、今後の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッツェンな研究者を育てようとする。期待の俊才たちは、今後の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッツェンな研究者を育てようとする。

ナノ構造体構築の方法論開拓

◇松浦和則・九州大学大学院 ウイルスなどのタンパク質の自

工学研究院准教 己集合挙動から着想して、三回

授「DNAやペ 対称性のβ構造形成ペプチドを

プチドの自己集 設計・合成し、それを水中で自

合特性を活用し 己集合させることにより、ウイ

たナノ構造体の構築」 ルスサイズのカプセル状集合体

松浦氏は、DNAやペプチド を構築することに成功してい

などの生体関連分子の自己集合 る。これらの成果は、学術性だ

特性を活用して、ナノ構造体を けでなく実用的観点からも評価

構築する新規な方法論を世界に が高く、さらなる発展が期待さ

先駆けて開拓した。また、球状 れる。

